

合	合	乙	老	四	○	工	四	工	四	合	合	乙	老	四
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○	
王	
四	
上	
四	
合	わ
四	た
合	し
四	が
合	あ
中	な
上	た
四	に

合	ほれ
工	た
合	のは
五	
工	
合	ちよう
工	
五	
工	
合	ど
四	
合	
四	

合	じゅうく
上中	
工	の
合	はるで
中中上	
四上四	
○上四	した
工	
四	

合	いま
五	さ
合	ら
五	
五	り
七	え
五	ん
工	と
合	
中	い
上	う
四	な
乙	ら
合	ば

○	
合乙老	
四	
合	
中	もと
合	の
中	
上中工	じゅうく
合	に
工	

中中上	しておくれ
四上四	
○王四	
工	
四	
合合乙	
老	
四	

○	王	四	上	四	合	合	乙	老	四				
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--

十九の春

V e r 1 . 0

本調子

2/2

一、私があなたに惚れたのは
ちようど十九の春でした
いまさら離縁と言うならば
もとの十九にしておくれ

三、見捨て心があるならば
早くお知らせくださいね
年も若くあるうちは
思い残すな明日の花

五、主さん主さんと呼んだとて
主さんにや立派な方がある
いくら主さんと呼んだとて
一生忘れぬ片思い

二、もとの十九にするならば
庭の枯木を見てごらん
枯木に花が咲いたなら
十九にするのもやすけれど

四、一銭二銭の葉書さえ
千里万里の旅をする
同じゴザに住みながら
会えぬ我が身の切なさよ

六、奥山ずまいのウグイスは
梅の小枝で昼寝して
春が来るよな夢を見て
ホケキヨホケキヨと鳴いていた